

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会
TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561
HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com/>

第 61 号
2018 年 1 月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

今年もよろしくお願ひ致します

港北区災害ボランティア連絡会 会長 白井保

あけましておめでとうございます。皆様が新たな年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

昨年は地球温暖化の影響により、予測不能な豪雨により、福岡・大分両県に大きな被害が出ました。港北区でも 7 月には土砂災害警報による避難勧告が鳥山地区と大曽根地区に出ました。恐怖のゲリラ豪雨は区内でも油断できません。

「つながりは、そなえ」をつくる災害ボランティア活動の目途に、区内 28 の地域防災拠点との連携を図るために活動してきました。区の口利きに応じてくれた高田東小・新吉田第 2 小での訓練で、災害時のボランティア活動写真や防災クイズなどの展示を行い、当会副会長より連絡会活動の報告も行いました。

昨年末の新聞で千島海溝沿いでは巨大津波を伴うマグニチュード 8.8 以上の巨大地震が 30 年以内に 7 ~ 40 % と報じられていました。防災を自分のこととして捉え、地域の防災力向上へと動き、港北区災害ボランティアセンター向上を図りたいと思います。

今年もよろしくお願ひ致します。

阪神淡路大震災から 23 年目の神戸

慰霊と復興のモニュメント 1・17 希望の灯り



阪神淡路大震災は災害ボランティア活動の原点とよく言われます。確かに 180 万人と言われるボランティアが活動し、その後の市民活動に大きな影響を与え、神奈川県民活動サポートセンターもこの結果できたものです。

神戸市役所隣の東遊園地には毎年竹灯籠で 117 の数字を作り、午前 5 時 46 分に一斉に黙祷を捧げます。今年で 23 年目になりますが、まだまだ哀しみを抱えた姿が多く見られることでしょう。

公園の一角には「希望の灯り」が灯り続けています。また亡くなった方 4995 名のお名前を記した銘板を張った慰霊堂があります。参拝される方でご遺族の方はいとおしように名札をさすったりしています。災害で一瞬のうちに命を奪われた悔しさ、辛さはいつまでも消えないのでしょうか。

1 月 17 日には私たちも横浜から追悼の想いを届けましょう。



「港北の未来をひらく、学校と拠点運営」

12月拠点連絡会で鷺山校長が講演

拠点運営に学校関係者の協力は欠かせません。それだけでなくその訓練を子どもたちとの防災教育にも活かそうと言う鷺山校長のお話でした。鷺山校長は北綱島小、大豆戸小でもユニークな防災教育を実践してきました。その成果を拠点運営委員にも伝える会でした。会員二人からの違う角度での感想です。

* 拠点運営委員長の立場から

第1部では今年度に行われた港北区内の各地域防災拠点の運営訓練の様子を紹介しました。その中で興味深かったのは新吉田第2小学校での避難者カードを事前に記入しておく取り組みです。あらかじめ表が避難者カード裏に避難場所、常備薬、日頃の備えを記入するシートを全戸に配布して記入して冷蔵庫などに貼っておいてもらい避難時に持ってきてもらうというものです。

第2部では港北区人権啓発・防災講演会として長津田小学校の校長の鷺山龍太郎先生の「港北の未来をひらく、学校と連携した地域防災拠点運営に向けて」と題するお話でした。

鷺山先生は北綱島小学校、太尾小学校の校長を歴任され、防災士の資格もお持ちです。もともと理科、地学の先生で、4つのプレートがぶつかる上に位置する日本列島がいかに危険かということを知っていました。校長先生として児童・生徒の生命を守りたいと思いましたが、学校の防災対策だけでは不十分と思立ちました。放課後は生徒は帰宅するからです。そこで学校、家庭、地域が一体となった防災対策を行うことにしました。

防災訓練は地域と学校が一緒に行うことで、生徒と保護者が参加します。横浜市の防災資機材取扱講習会を受講した防災資機材取扱リーダーを増やしたり、防災備蓄庫の資機材をお祭りなどで使用するなど防災を身近なものにする取り組みを進めています。またご自身がマンションにお住まいとのことで、マンションにおける防災計画を立案し、防災組織も立ち上げました。

いくら優れた知識や経験をお持ちでも、それだけでは人は動きません。地域防災組織はボランティアで運営されます。会社組織と違って立場は平等です。上から目線の物言いは反発を招くでしょう。

私も高田東小学校地域防災拠点運営委員会の委員長として地域の防災力の向上のために学校の先生方や拠点委員の方々と力を合わせて活動していきたいと思います。(山本)

* 住民の立場から

鷺山さんは校長としての赴任先小学校で防災活動を積極的に行なってこられ「ハマの防災校長」の異名を持っておられます。横浜市立の小中学校は地域防災拠点(震災時避難場所)となっていますが、拠点の校長先生が音頭を取ると、ここまでできるのだと感心しました。紙面の都合で一部しか紹介できませんが、学校を拠点にして「みんなが育つ防災教育」を理念に活動すると、子どもが育ち、学校教職員が育ち、保護者が育ち、地域が育ちます。子どもたちに防災教育をするのはどこの学校でも当たり前かもしれませんが、発災時に保護者が迎えに来られない場合でも生徒たちが学校で安全に過ごすことができる力を身に付けることを目的とした宿泊訓練など、一歩進んだ訓練を実施されています。教職員には、横浜防災ライセンス資機材取扱講習会や防災士研修講座の受講を推奨し、資機材取扱リーダーや防災士になってもらう。土曜日に授業参観とあわせて地域防災訓練を実施する。学区内でのお祭りなどのイベントで、拠点小学校にある防災資機材を提供し扱いに慣れてもらう。PTAや学区内自治会、自治会未加入の学区内マンション住人を巻き込んで、学区防災計画を立案したり、学区震災時行動マニュアルを作成して学区内全戸に配る、等々。講演聴講者には太尾小学校区全戸配布の「ふるさと太尾防災・震災時行動マニュアル」の他、雛形資料として「小学校災害対策本部・組織行動マニュアル」、「マンション・地区防災計画災害対策マニュアル」、「自治会・地区防災計画」も資料として配られました。これらの雛形は、どの小学校、マンション、自治会でも活用できるものと思います。(室伏)

シミュレーションのご案内

「横浜に大地震！その時あなたは」

* 2月18日(日) 10時~12時30分

横浜に大地震が起きたら、どのようなボランティアニーズが発生し、ボラセンはどう対応するか、を一緒に考えませんか。

申し込み：電話、ファクス、HPからどうぞ

締め切り：2月15日

今年も常総市から学んだセミナー

常総市社協事務局長からお話を聞く

私たちの連絡会はこの間常総市とおつきあいを深めてきました。昨年は区内4地区社協からも視察のバスが出て、参加者からはとても良い研修の機会だったとの声も聞かれました。

今年度の、港北災害ボランティアセミナーは、「常総市災害ボランティアセンターから学ぶ」をテーマとして平成27年9月関東・東北豪雨災害で被害を受けた際実際に災害ボランティアセンターを運営させた、常総市社会福祉協議会の事務局長、神林健さんを講師にお招きし当時から現在までの状況を講演して頂きました。

お人柄穏やかでユーモアも交えてのお話でしたが大変な速さで地域を水没させた脅威に際してご自身も被災された中、錯綜する情報への対応、慣れないボートを使う等の行動手段の困難、ご苦勞な状況で地域の方々を安全にと文字道理不眠不休での尽力されたのだと思いました。

昨年度、「災害時の地域連携」をテーマに現地NPO法人コモンズ代表横田能洋さん、森下町地域役員染谷みどりさんに、講演頂いた際のお話も蘇りました。

当会の常総市での活動では、地域の被災された方々の復興への思いである「自助」、心身を応援するボランティア活動の共助の有益性を強く感じていました。

今回の講演から「公助」は、公務のみならず温かい思いも伴った大きな支えであり、公共自を繋ぐ社協の存在をありがたく思いました。災害の多発する今、どのような立場からも思いやる心が復興力につながると常総の皆さんに学びました。
(小松尚子)



被災当時の凄まじい写真に被害を感ぜさせるものでした

昨年は地元のNPOの方と地域役員の方から発災時の状況やボランティアの受け入れなど「どう地域と繋がったか」を伺いました。ことは実際にボランティアセンターを運営した社協の方からその時の様子や事例を交えて、センターの立ち上げや他団体との連携など講演いただきました。貴重なお話にも関わらず参加者は35名(連絡会メンバーは14名Dブロック3名)と少なく残念でした。発災時の状況が時系列に沿って分かりやすく、また当時の混乱した様子をそのまま話されたことから講師のお人柄をうかがい知ることができました。センターの組織体制や情報発信の方法、職員間の連絡方法やニーズの内容など事細かく説明があり、短い時間ながら今後のセンター運営に役立つ内容でした。経験者ならではの注意点3つが印象に残りました。

- ① 支援を受け入れるときに有償なのか必ず確認をする
- ② センターで出来ない事案でも、対応可能な団体や他部署へ引き継ぎや紹介を行い、「できません」で終わることのないように
- ③ 後日のために専用に記録を残す担当者を置くこと。経験者から様々なお話を伺い、今後の準備に備えたいと思います。

最後に、お忙しいなか貴重なお時間を連絡会のために割いてくださった講師の神林様に御礼申し上げますとともに、常総市被災者の方の一日も早い復興をお祈りいたします。
(小澤)



自身も被災しながら支援活動をする大変さを語る神林事務局長

リレー連載 我が家の防災 ⑨ 小澤さんちの防災 ~我がロッカーの防災編~

発災時私の勤務先では基本的に鉄道が停まっている時、従業員は会社に留まることとなっています。建物の耐震は最新のものなので、大地震の時は会社でしばらく過ごす事になります。そのため社内には数日分のトイレグッズと飲料水、非常食の備蓄があります。先日備蓄品の入れ替えがあり、大量の水と乾パン、缶詰パンが配布されました。十分な量があることがわかり、発災時でも慌てることなく命を繋ぐことができるかと安心できました。それをふまえた上で小澤のロッカーには以下のものがあります。運動靴、靴下、大きめのバスタオル(ブランケットにも枕にも用途は多数)、軍手、ウエットティッシュ、超薄手の防寒シート、大人用おむつ数枚、下着、その他お茶やティッシュ、ひざ掛け、セーターも常備してあります。いまはまだ用意していませんが、スマホ充電器も必要でしょうか。ソーラー発電のタイプならば小型で済みそうなので只今検討中です。



ロッカー内の災害用品

ところで会社の立地は標高 5.5m、目の前は川、海岸からは 1km 未満。大津波が来た時 2 階までの水没は免れないと思っています。そのため水が引くまでの間は閉鎖された建物の上層階での大人数の避難生活になる可能性もあります。そんな時どのようなものが必要なのか……。共同生活を円満にするためのトランプなどの娯楽品もあると良いのかもしれませんが。

一番怖いのは通勤中の発災です。東日本大震災でも地下鉄が何度も緊急停車し、それが大変怖かったことを覚えています。今持ち歩いているのはミニ懐中電灯と笛だけです。みなさまは外出時の用意はどうされていますか？

勤務先、通勤途中、外出先の防災について参考になる事がありましたら、是非教えてください！

災害用伝言ダイヤル

この仕組みは阪神淡路大震災の際に電話が輻輳し、5日間もかかりにくい状況が続いた反省から、1998年3月31日から稼働しました。実際に使われた災害はその年の8月27日起きた栃木・福島集中豪雨でした。

被災地からの伝言を優先するため、提供開始当初は被災地以外からは伝言の再生のみとなります。また被災地からの録音も服装状態では制限されることもあります。ですからweb171等で二重、三重の伝言体制をとっておくことが絶対に必要です。web171は事前登録することでメールや携帯電話での伝言ができます。また災害用伝言ダイヤルと連携することでそれぞれで登録された伝言を確認できます。

東日本大震災では17日の17時47分から稼働し始めました。携帯電話各社は発生直後の15時47分から15時21分の間と非常に素早い運用提供ができています。今は1人1台携帯電話を持つ時代です。ですから固定電話での災害用伝言ダイヤルの練習だけではなく、携帯電話を使った伝言ダイヤルのシステムをそれぞれの会社のやり方で練習しておくことが大事です。

必ず事前練習を

毎月1日、15日、正月3が日、防災週間(8月30日午前9時から9月5日午後5時まで)、防災とボランティアの週間(1月15日9時から1月21日午後5時)のそれぞれの期間は体験ができるようになっています。ぜひ家族揃って練習しておきましょう。また遠くに親戚や知人がいる場合はその人たちにもこの仕組みをお知らせしておいて、いざと言う時は必ず伝言ダイヤルにアクセスして安否確認をしてもらえるような確認を取っておくことは必須です。

編集後記

☆23年前は知人が来宅するまでは地震の事を知りませんでした。それ以来朝はすぐにテレビを点けるようになりました。(宇田川)

☆阪神淡路大震災というと、東日本大震災の1ヶ月前に観た「その街のこども」を思い出します。良い映画でお勧めです。(室伏)

☆新年早々携帯のブザーも鳴らないで、地震が2回もきました。やはり来るのでしょうか?頭の中の備蓄も急がないと!! よろしくお祈りします。(付岡)

☆年始にスカウトを率いてスキー訓練に行きました。その度に、数年前大雪で横浜帰着が12時間遅れたことを思い出します。今年も寒気が強く、局地的な大雪が心配です。(中島)